

紀伊國屋書店、高等学校向けオンライン型探究教材「アクチュアル」の販売総代理店契約を締結



株式会社紀伊國屋書店（代表取締役会長兼社長 高井 昌史）は、2021年10月より株式会社大修館書店（代表取締役社長：鈴木一行）と、高等学校向けオンライン型探究教材「アクチュアル」の販売総代理店契約を締結し、販売活動を行うことに合意いたしました。

2022年4月は、高等学校新指導要領全面実施による、新1年生での「総合的な探究の時間」必履修化に加え、生徒1人1台環境の整備が急速に進む時期でもあります。

「アクチュアル」は、こうした学びや環境の変化をサポートするために、LMS（学習管理システム）で学びを一元管理することができるオンライン型の教材です。「総合的な探究の時間」にどう取り組めばいいのか、配備された端末を生徒にどう使わせたらいいのか、こうした悩みを解決する教材として、来年2022年4月にリリースします。

■ 「アクチュアル」の特徴

1) 探究教材として

- ・ 明日から探究が始められる授業展開案
- ・ 無理なく取り組める段階別の構成

2) ICT ツールとして

- ・ 探究の成果物や履歴を一元管理できる LMS を実装
- ・ 遠隔授業、ハイブリッド授業などどんな環境でも授業を実施できる

3) 編集委員

探究の経験豊かな高校教員が中心となって教材を作成。現場の“リアル”な悩みを解決したいという思いが結実しました。

【編集委員】米田謙三（関西学院千里国際中等部・高等部） *代表

上山晋平（福山市立福山中・高等学校）

紀平武宏（京都市立堀川高等学校）

藤原亮治（筑波大学附属坂戸高等学校）

蒲生諒太（立命館大学教育開発推進機構・講師）

「総合的な探究の時間」においては、生徒が自ら様々な情報を集め、スライドや論文に成果をまとめる必要があります。そのためには、教科学習以上に ICT を学びに取り入れるのが効果的です。活動の記録を整理しやすい、発表・表現の力がつく、データであることで試行錯誤が可能、学びのポートフォリオ

が作れるなど、ICT を取り入れる機会として、「アクチュアル」をお勧めします。

<株式会社 紀伊國屋書店について>

昭和2年（1927年）に創業し、90年以上の歴史を持つ日本最大規模の書店チェーンです。外商部門は現在「営業総本部」として、北海道から沖縄まで日本全国に展開する28の営業拠点と海外6営業所3事務所、5部門の専門部署を擁します。全国の大学・企業及び中学・高校へ、国内外の書籍・雑誌・データベース・電子書籍の販売から、教育研究設備・備品の納入、図書館業務の受託まで、幅広いサービスを提供しています。中学・高校向けのICTサービスでは、「ジャパンナレッジSchool」、電子図書館「LibrariE」ほか、データベース・ツールを多数取り扱っています。

※この件に関するお問い合わせ先

株式会社紀伊國屋書店 総務部 広報担当 info@kinokuniya.co.jp